

団体名 忍川の自然に親しむ会

(行田市民大学・同市民大学同窓会 環境グループ)

<http://oshi.html.xdomain.jp>

2023年2月11日(土)埼玉県川の再生交流会2023ポスターセッション

忍川の美化活動と生き物調査

忍川の自然に親しむ会は、2013(平成25)年の設立以来、忍川の美化活動、生き物調べ等に取り組み、忍川の自然環境の特徴を調査して、川の置かれた課題を探ってきた。

活動の基本として、「市民が水に親しみをもち、自然環境を大切にできる」視点を重視してきた。

1 目的

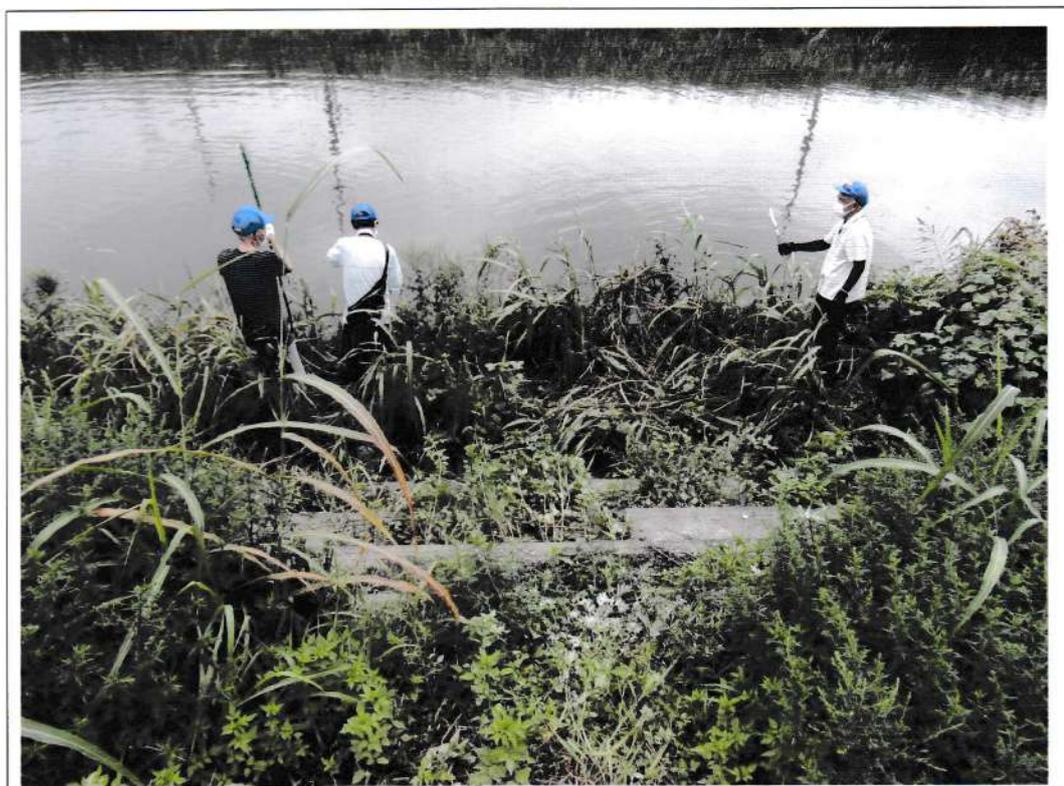
(1)忍川の研究開始以来、最近は2021年以降「忍川の自然環境の特徴を知り」、忍川の置かれた課題を探ってみた。

(2)2021～2年の調査・研究や活動の柱は次の通り

- ・吾妻橋(行田警察署西側)から下流300m 付近までの忍川の清掃と生き物調査
- ・谷故橋(行田市駅の一つ上流の橋)から上流 150m、下流 300m付近までの忍川の清掃と生き物調査
- ・他の忍川美化活動、自然保護団体、行政との協力活動
- ・全国水生生物調査(環境省主催)への参加

・忍川等表示看板の設置

・会員の知識を深め、親睦を図るハイキングや見学会、親睦会等の実施



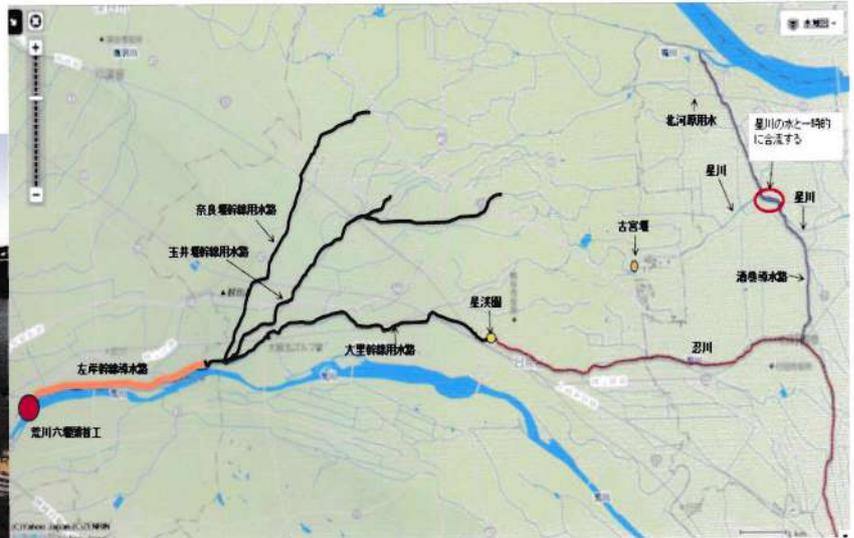
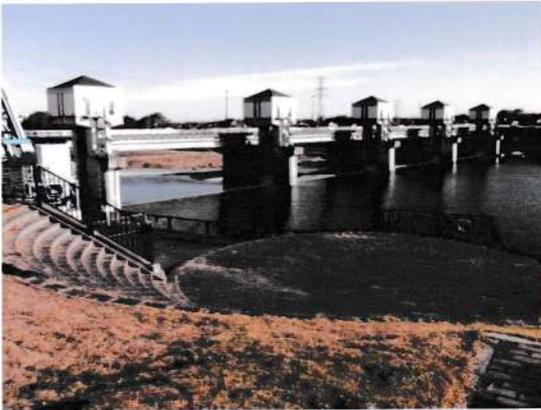
忍川の増水時には、側面の堰から、武蔵水路に排水するシステムが設置された。

II 忍川の昔と今の主な水源

荒川・六堰

(水の取り入れ口)

荒川からの流路



忍川は昭和時代までは熊谷・星溪園の湧水が主な水源だったが、現在は荒川・六堰から主に取水し、農業用水等で利用されている。

III 忍川の清掃活動と生き物調査



清掃での河川ゴミは三者協定(美化団体・市・県土事務所)により、市の清掃センターに運び入れ、焼却・埋め立て等処理される。

IV 忍川・旧忍川(さきたま調節池)の自然

(1)昆虫 付近には昆虫類は多く観察されるが、秋になると懐かしい種が飛んでいた。

・ハグロトンボ ・オニヤンマ

(2)魚介類 多くの種が観察されるが、水質が良くないので食用には適さない。

・コイ ・フナ ・モツゴ ・ナマズ ・トウヨシノボリ

・アメリカザリガニ ・クサガメ ・ミシシippアカミミガメ



アメリカナマズ

ナマズ 体長50cm

仕掛け網「「筥」(うけ)

(3)植物 忍川は護岸工事が何度も行われている河川であり、護岸の植物は市街地や外来種が多い。他の植物ではカラシナ、アメリカセンダングサ等もあり、川の中にはマコモ等も多くの繁殖が観察される。

(4) 捕獲魚種の例



アメリカザリガニ



タモロコ



スジエビ



モツゴ



トウヨシノボリ



ギンブナ

中流域に観察される生物種が確認されるが、荒川からの導水により、季節による生育環境の変化も影響しているのか。

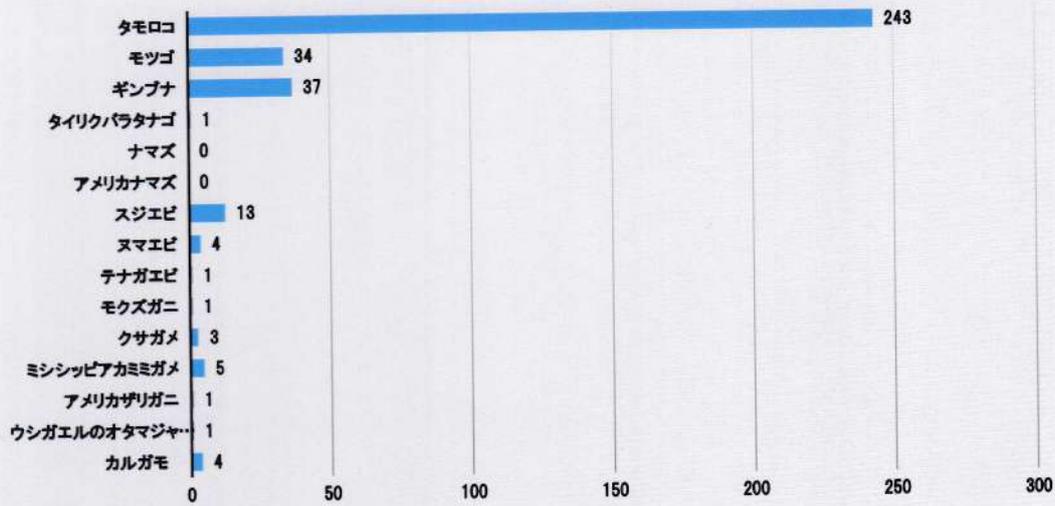
V 吾妻橋、谷故橋の種別 捕獲数(個体数)

忍川の市内二地点での二年間 14 回の調査結果です。

(1) 吾妻橋における生物種の特徴

- ・タモロコ、ギンブナ、モツゴの順で個体数が多い
- ・モクズガニとテナガエビを捕獲でき、生息を示していた
- ・外来種ミシシippアカミガメの捕獲数が多くなった

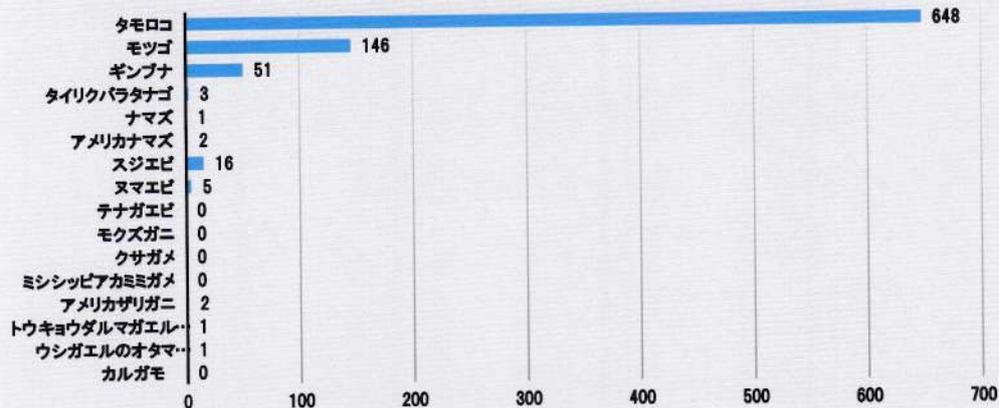
吾妻橋 2021~2年、捕獲数



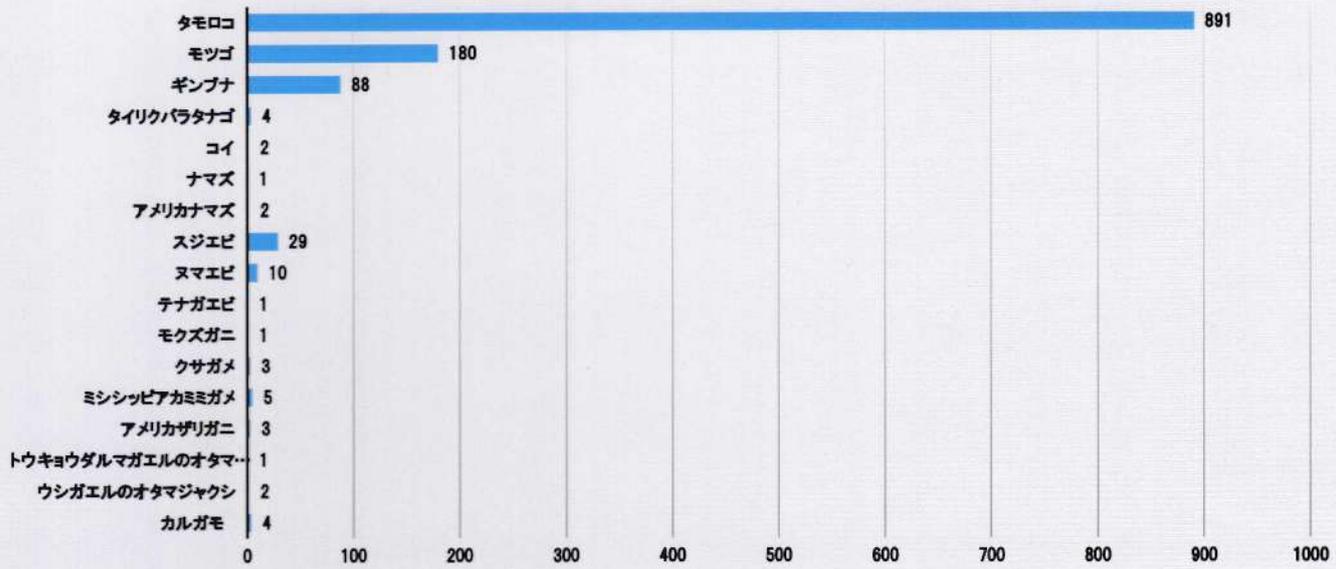
(2) 谷故橋における生物種の特徴

・タモロコ、モツゴ、ギンブナが多い ・アメリカナマズを捕獲

谷故橋 2021~2年、捕獲数



忍川・生物種、二地点の合計 2021~2年、捕獲数のまとめ



◎VI 結果

- ・忍川の水質は汚濁が進んで階級はⅣである。川が市街地を通り排水が流入しやすい現状の河川であり、それでも17種類の生物が観察された。
- ・各種の捕獲できた個体数はタモロコが891、モツゴが180、ギンブナが88、スジエビが29、ヌマエビが10と順に数えられた

◎VII 考察

- ・テナガエビ、モクズガニ捕獲は水質の改善もあったと理解できるか
- ・ミシシippアカミガメ等外来種を捕獲したことで、忍川で繁殖していると理解できるか

VIII 今後の研究方向

プラスチック、ビニールごみ等はマイクロプラスチックとなり私たちの住む環境を汚染する。汚染物質は更に河川から海へ下り、生物に影響を与え、今や地球環境をも汚染する一因ともなっている。

今後、私たちサークル自身も国・県等公共団体の環境観察を待つまでもなく、水質検査を実施しつつ 持続可能な社会(SDGs)を意識し、河川環境を改善する努力を継続する覚悟である。